

徳田秋聲 （秋聲） 小説家。明治四年十一月二十一日石川縣生れ。昭和十八年十一月十八日歿（八七—一九四三）。本名末雄。筆名秋生、秋聲樓、紅葉の門心入り、もち自然主義文學の代表的作家となる。昭和十二年帝國藝術院會員。

編者書、ゴッパ作『王冠』（筆記、明治二十二年十月十八日春陽社）

堂、『新始旅行』（生田榮山、田口樗山、西村清山）合著、明治二十四年七月十八日新聲社）

社）、『雲のゆくゝ』（明治二十四年九月十九日春陽堂）、『驕慢兒』

・小革命（附・トルキ作『鞭の響』）（明治二十五年二月十日新聲社）

『花がすめ』（合著・山川直信編、明治二十五年九月十五日又錦堂）

『愛の戀の情』（三嶋清川）田口樗山合著、明治二十六年二月十五日新聲社）

『少年垂族・下編』（明治二十八年十一月十日春陽堂）

『おぼし児』（譯、明治二十八年十一月十五日讀賣新聞社）

『花六げ』（明治二十八年十一月二十一日白高有倫堂）

『血蕃藪』（明治二十九年一月五日隆文館）、『母の記念（前編）』

（明治二十九年四月二十日今古堂書店）、『落し嵐』（内題「おとこ嵐」）

（明治四十年一月一日今古堂書店）、『奈落』（明治四十年一月一日）

『金屋文淵堂』、『わたしの鳥』（一人合著、明治四十年十一月十五日）

『眞實部』、『焰・上巻』（明治四十年十一月二十一日今古堂書店）

『美人のあひこ』（紅葉）合著、（再版、明治四十年十一月二十五日）

『樂部』、『洞落』（明治四十一年七月十八日隆文館）

『おぼし雲』（合著・大町桂月・笹川龍風・白河鯉洋・樋口龍政）

（明治四十一年一月十五日詩有倫堂）、『同胞（二人）』



(明治四十一年九月十七日今古堂書店)、『新世帯』(明治四十一年九月)、『千八百新潮社』、『會話文範』(編、明治四十四年六月)、『千八百新潮社』、『作文叢書』(、『昔の女』(明治四十四年十二月一日今古堂書店)、『新作文庫』)、『懺』(明治四十五年一月七日新潮社)、『足迹』(明治四十五年四月十一日新潮社)、『人物描寫法』(大正元年九月)、『千八百新潮社』、『作文叢書』)、『構皮』(大正二年二月十八日春陽堂)、『爛』(大正二年七月十五日新潮社)、『めづらあひ』(大正二年八月)、『千八百叢書』之日本社)、『發子叢書』)、『絶縁』(大正二年十一月十八日春陽堂)、『明治小説文章叢書』(田山花袋合著各義、大正二年五月十日早稻田文學社出版、文學普及會)、『早稻田會叢書』。『如藤野』(白(石實)二著)、『モオパッサン作』、『ズル・ヤミー』(譯編各義、大正二年九月十五日白月社)、『現代百科文庫』、『櫻葉叢書』。『葛西善藏譯編』、『ユーゴー作』、『哀史』(シ・ミゼラブル)、『譯、大正二年九月)、『千八百新潮社』、『世界大著物語叢書』)、『四十女』(大正二年十月)、『千五百植竹書院』、『文明叢書』)、『爛れ』(大正四年一月)、『千五百新潮社』、『代表的名作選集』)、『めづらくれ』(大正四年九月十五日新潮社)、『奔流』(大正五年二月八日新潮社)、『誘惑』全(二冊(前編・大正六年六月一日、後編・八月一日新潮社)、『現代文藝傑作集』第一卷)、『解(資)望』(二高瀨川合著・宮森赫太郎譯編、大正六年七月九日三光書院)、『犧牲』(大正六年七月)、『千五百平和出版社)、『小説の作り方』(大正七年二月)、『千八百新潮社)、『秘のいの戀』(大正七年七月)、『千五百新潮社)、『ユーゴー作』、『哀史物語』(譯、大正七年九月七日新潮社)、『路傍の花』(大正八年二月)、『千八百新潮社)、『結婚

- まるく』(大正九年一月十日新潮社)、『妹思心』(大正九年六月十八日日本評論社出版部)、『残り』の炎』(大正九年六月)二十八日學藝書院「現代傑作選集」)、『或賣安婦の語』(大正九年十一月十日日本評論社出版部)、『秋聲傑作集』全二卷(第一卷・大正九年十一月十二日、第二卷・十年五月十六日新潮社)、『斷崖』(大正十年十月五日日本評論社出版部)、『惑』まどろみ(大正十年十一月十八日大阪・一書堂書店)、『何處までも』(大正十一年五月十五日新潮社)、『呪阻』(大正十一年十月十一日玄文社)、『日本文章史』(大正十四年四月二十日松陽堂「文章讀本叢書」)、『少年の頃・上卷』(合著・小野誠悟編、大正十四年四月二十日第一出版協會「少年少女文學叢書」)、『徳田秋聲集』(大正十四年八月一日新潮社「現代小説全集」)、『一の道』(大正十四年七月十七日新潮社)、『草は豊る』(大正十四年十月二十五日玄藝日本社)、『徴・足迹』(大正十五年二月十五日新潮社)、『戀愛放浪』(大正十五年五月四日聚英閣文藝部)、『瀕死の告白』(大正十五年十一月二十五日改造社)、『蘇生』(大正十五年十一月二十一日新潮社)、『日本小説集・第二集』(昭和二年版)『(合著・文藝家協會編、昭和二年五月十一日新潮社)、『道草まどろみ』(昭和二年十一月一日新潮社)、『徳田秋聲篇』(昭和四年二月一日新潮社「現代長篇小説全集」)、『町の路の場』(昭和九年七月十日改造社「文藝復興叢書」)、『勳章』(昭和十一年二月二十八日中央公論社)、『思ひ出のまどろみ』(昭和十一年四月二十日文學界社)、『まどろみ』(昭和十一年四月二十日岩波書店「岩波文庫」)、『足迹』(昭和十二年五月二十八日新潮社「新潮文庫」)、隨筆集『灰皿』

- (昭和十二年七月) 千五百砂子屋書房)、 『蠶』 (昭和十二年九月一日新潮社「新潮文庫」)、 『假裝人物』 (昭和十二年十一月二十一日中央公論社)、 『光を追うて』 (昭和十四年二月十六日新潮社)、 『爛』 (昭和十五年一月二十一日岩波書店「岩波文庫」)、 『子どりの魂』 (昭和十五年二月五日青木書店「文化叢書」)、 『現代文壇講座』 (合著・辻藤一郎編、第一卷・昭和十五年二月二十日、第二卷・四月二十日・三笠書房)、 『足跡』 (昭和十五年十月十日岩波書店「岩波文庫」)、 『老眼鏡』 (昭和十五年十一月五日高山書院)、 『乾いた唇』 (昭和十五年十一月二十日白駒石書房)、 『土の癒ゆる』 (昭和十六年四月十五日櫻井書店)、 『西の旅』 (昭和十六年六月二十五日豊國社)、 『一莖の花』 (昭和十六年九月一日有光社「有光名作選集」)、 『和歌』 (昭和十六年十月二十五日豊國社)、 『橋語』 (昭和十七年一月十日櫻井書店「櫻井版名作選集」)、 『徳田秋聲集』 (昭和十七年九月二十日河出書房「二代名作全集」)、 『結婚まぐさ』 (昭和二十年十一月二十日東京文化社)、 『一丁の好女』 (昭和二十一年六月十五日鎌倉文庫「現代文學選」)、 『縮圖』 (昭和二十一年七月十日小山書店)、 『灰燼』 (昭和二十一年十一月十日世界文庫)、 『古里の雪』 (昭和二十二年九月二十日白山書房)、 『或賣笑婦の話』 (昭和二十二年十月十日東峰書房)、 『或賣笑婦の話』 (昭和二十二年十一月十日三田文庫)、 『月光曲』 (昭和二十二年一月一日喜入屋書店)、 『徳田秋聲選集』 (第一卷・昭和二十二年二月二十五日、第二卷・八月一日日本文藝春秋新社)、 『西の旅』 (昭和二十二年二月二十日桃李書院)、 『假裝人物』 (昭和二十二年四月二十五日奈良・養徳社「養徳

叢書・日本篇」)、 『禁作品集』 (合著・小田切秀雄編、昭和二十二年九月一日八雲書店)、 『縮圖』 (昭和二十四年十月二十一日新潮社「新潮文庫」)、 『あらくれ』 (昭和二十四年十月二十一日新潮社「新潮文庫」)、 『病める白輪』 (昭和二十四年十一月一日東方社)、 『歡』 (昭和二十四年十一月十日岩波書店「岩波文庫」)、 『縮圖』 (昭和二十六年七月五日岩波書店「岩波文庫」)、 『假裝人物』 (昭和二十七年五月二十一日新潮社「新潮文庫」)、 『歡』 (昭和二十七年七月二十日新潮社「新潮文庫」)、 『或賣笑婦の語・蒼白の月池七篇』 (昭和三十年一月五日岩波書店「岩波文庫」)、 『新世帯・足袋の底他』 篇』 (昭和三十年十一月五日岩波書店「岩波文庫」)、 『假裝人物』 (昭和三十一年一月九日岩波書店「岩波文庫」)、 『あらくれ』 (昭和三十一年二月二十日新潮社)、 『爛』 (昭和三十一年十一月二十五日新潮社「新潮文庫」)、 『徳田秋聲集』 (白井吉見編、昭和二十八年一月二十日新潮社「日本文學全集」)、 『爛』 (木村莊八畫、昭和二十九年六月二十日東峰出版株式会社)、 『徳田秋聲集』 (昭和四十八年十一月十日新潮社「新潮日本文学」) 等。

文獻、舟橋聖一著『徳田秋聲』 (昭和十六年四月二十日弘文堂書店「教養文庫」)、 『現代作家選集』 全二冊 (秋聲文學構建設記念、上・昭和二十二年一月十日、下・五月二十日桃李書院)、 野口喜士男著『徳田秋聲ノートー現実密着の深度』 (昭和四十七年六月二十四日中央大学出版部)、 小島信夫著『私の作家評伝・Iー草平・秋聲・漱石・鷗外・武郎・藤村』 (昭和四十七年八月二十五日新潮社「新潮選書」) 等。